

今週のメニュー

トピックス

塩ビものづくりコンテスト2011

- 作品の応募と製品のエントリーが2月28日に締め切り -

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

随想

蛸壺とシステム (連載43)

金沢工業大学・(独)科学技術振興機構 上野 潔

編集後記

トピックス

塩ビものづくりコンテスト2011

- 作品の応募と製品のエントリーが2月28日に締め切り -

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

いよいよ、「塩ビものづくりコンテスト2011」の作品応募と製品のエントリーの締め切りが迫っています。昨年10月20日にキックオフしたコンテストですが、既に、応募作品や製品のエントリーが事務局に届いています。

今回が初めての取り組みですが、後援頂いた「経済産業省」や「(社)日本インダストリアルデザイナー協会」、審査員の先生方にご相談させて頂きながら公平性の確保と活発な応募の公表に努めて進めています。特に、応募を予定している方からのご質問で、分かりにくい部分として、作品と製品の募集の違いがあり、少し説明させて頂きます。



ポスター(拡大)

製品応募は、制作された製品としての応募を言います。主として「国内で流通している既存の軟質塩ビ製品や中間加工素材(但し上市後5年以内)及び試作品」が対象になります。それに対して、作品応募とは、制作の前段階であるデザイン作品としての応募を言います。

製品応募だけだと、素材の入手と製品までの加工設備・技術が必要であり、一般の方は製品まで作って応募することが難しいと考えられるため、作品応募というジャンルをつくりました。軟質塩ビ素材を使用する内外未発表の作品であって、最終的な製品の姿が明確に分るようなコンセプトや全体図等のプレゼンテーションシートの提出が応募内容となります。応募された作品のうち、審査(一次審査)で優れているとされたものは、主催者の会員会社が材料提供と製品としてプロトタイプの製作を**無料**で行います。そして、製品として応募されたものと合わせて、最終審査が行われます。もちろん、一般の方が製品として応募することも可能です。

このような進め方となるため、**作品応募の締切り、製品応募のエントリーは共に2月28日、製品応募の製品持ち込み締切りは5月20日**と異なります。

作品応募には、斬新で時代を切り拓くような作品が出てくることを期待しています。また、今回のコンテストは、初めての試みであることから、既存の製品の中でも、今回のテーマである「新たに切り拓く、PVCの可能性」に相応しいものが発掘されるものと期待しています。

まだまだ先と思っていると折角の機会を逃してしまいますので、いずれも、早めに応募をお願いします。

詳しい応募の方法や必要な書類等については、[日本ビニル工業会のホームページ](#)をご参照下さい。また、今回のコンテストの主旨などについても、デザイン情報誌[AXIS](#)1-2月号やそのオフィシャルサイト「[jiku](#)」に紹介されています。

今回の「塩ビものづくりコンテスト」の最大の魅力は、塩ビ業界のレジンから加工、製品、商流の全体が参画していることと、これまで塩ビを触ったことのないデザイナーや、一般の方が参加するコンテストにあると思っています。塩ビに関わらず、「日本のモノづくり」を見直す機会になればと願っています。コスト競争にシフトしたグローバルな競争ではなく、日本でしか出来ない価値を付けることでの国際競争力を期待しています。是非、皆さん、奮ってこのコンテストにチャレンジして下さい。(了)

随想

蛸壺とシステム（連載43）

金沢工業大学・(独)科学技術振興機構 上野 潔

蛸壺とは、蛸を捕獲するため海中に沈める壺のことですが、狭い分野にだけ深くて横の繋がりが弱い事を揶揄する表現です。最近ではシステム思考の反意語としても使われています。

日々が競争の世界である企業経営が蛸壺では困りますが、最近は学術研究の分野でも蛸壺を排除して異分野との共同研究やシステム思考の重要性が強調されています。一つの分野にひたすら取り組んで、長い年月を経てから評価されるようなテーマは、大学や国の研究機関での研究対象になりにくくなっています。

私の所属していた企業の研究所でも、製品とは全く関係の無いと思われるような未来の研究が許されていた時代がありました。国の開発予算や大学の研究テーマも、「出口」すなわち成果の「見える化」と完了期限が重要であり、取得特許件数や引用された論文の数が評価の基準になっています。

しかし、ノーベル賞で評価されるのは長年蛸壺的に深く縦方向に、粘り強く研究を続けた結果が花開いているのではないのでしょうか？もちろん闇雲の研究ではなく戦略的な目標設定は重要でしょう。それはアメリカの研究者たちの、ノーベル賞受賞戦略などを見ると

判ります。しかし、一旦決めた目標に対しては、10年20年の蛸壺的な継続研究が必要なのだと思います。不思議なことに、蛸壺にいて世界的な評価を得られた学者ほど、若い人にシステム思考や融合の必要性を説くような気がします。

「400年後に評価されても意味はない。生きているうちに、それも若いときに評価されないと成功したとはいえない」と考える研究者が増えました。政治家も行政も、マスコミから無駄な予算と批判されないために、国の予算に「出口」の「見える化」を求めるのです。

多くの無駄な研究の中から、たった一つでも偶然に成果が出ればよいという考えは通用しなくなりました。ばら撒き予算が批判され、重点投資が評価されます。いままで予算が広く平等にばら撒かれ、あまりにも悪平等が進んだ反動なのです。

多くの蛸壺は、漁師が引き上げない限り、何も生まずに蛸が安穩に過ごすだけで終わりですが、1000個の蛸壺から3つ獲物が取れば良いという考えは通用しにくくなりました。

企業の研究も、システム思考になり、ひとりの変人が上司の目を盗んでコツコツと研究し、自宅には病気の妻がいて、ある日偶然別の良き上司に出会って、苦労の末花開くというような「プロジェクトX」は存在しにくくなってきました。企業は生き抜くために、決して1点集中的な危険な研究投資はしないものです。全方位は無理でも、将来の小さな芽は残しておくのです。

今は、環境と安全安心の時代になりました。環境は「低炭素型社会」安心安全は「ゼロリスク」が研究テーマに入っていると国の予算も付きやすいのです。

フッ素系冷媒の開発、鉛や水銀を使用した製品、廃棄物の海洋投棄、遺伝子組み換え、・・・名前を聞いただけで日本では研究が困難です。しかし相変わらず世界では研究が続けられています。一旦規制されると、その研究に手を出さないのはあまりにも短絡的で1点集中的ではないでしょうか？ 規制の中にこそ、研究する価値や将来のビジネスチャンスがあるのです。

蛸壺の中は安全で居心地が良いそうですが、こんどはシステム思考という名前の巨大な蛸壺に入って皆で安心しているのではもっと心配です。小さな蛸壺で、狭く深く、とんでもないテーマを、長期間研究継続する人もいて欲しいと思います。

NHKの「プロジェクトX」は187本放映されて終了しました。内容が一面的で、高度成長時代の遺物と揶揄する人もいますが、成功事例はシステム技術と蛸壺とどちらから生まれたのでしょうか？

富士山レーダー、VHSビデオ、胃カメラ、CVCCエンジン、新幹線、しんかい6500、YS11、宇宙ロマンすばる、オートフォーカスカメラ、ロータリーエンジン、トランジスタラジオ、電気釜、液晶ディスプレイ、すばる360、H2ロケット、自動改札機、魚群探知機、クオーツ時計、レーザーメス、カップ麺、フェアレディーZ、東京ドーム、デジタルカメラ、洗濯機、ワープロ、コピー機、プラズマテレビ、ロボット、食洗機、世界最速エレベータ、IHクッキングヒータ、ICカード、

これらの事例は、もちろんシステム思考で無ければ製品化に至らなかったのですが、起点は小さな蛸壺から生まれているのです。

蛸壺だけを礼賛をするつもりはありません。ときどき蛸壺の中も懐中電灯で照らして皆で覗いて、居眠りしていないか揺り動かす必要はあります。しかし蛸壺の中で一心不乱に研究している無愛想な研究者に対して、急にネットワーク化やシステム思考を要求するのは気の毒な気がするのです。(了)

前回：[「システムと、部品・コンポーネント・素材」\(連載42\)](#)

編集後記

先週、山手線に乗ったら、「帰ってこい！！鈴木さん」との全車両の全面広告が目につきました。何？と思って良く見ると「鈴木さん」(関東で最も多い苗字だそうです)の発祥の地との説が伝わる和歌山県が観光客を呼び込もうとのキャッチコピーの中吊り広告でした。

鈴木さん以外に佐藤さん、高橋さん、みなさんもぜひ和歌山へとの呼びかけとともに、和歌山の名所・名産として高野山、熊野古道、紀州梅などが記載されていました。我が故郷へ帰ってみたいな、故郷の有名なところは何かなと改めて考えさせられた方も多かったと思います。

現在、「塩ビものづくりコンテスト」が開催され、応募を受け付けているところですが、我々事務局も日頃の活動の中で「帰ってこい！！」から「帰ってきた！！」塩ビを広報・紹介し続けていきたいと思っています。(薩弘)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
